

田浦遺跡の発掘調査

平成24年7月～平成25年2月の8ヶ月間、小松島市教育委員会が、調査主体となる埋蔵文化財発掘調査を『田浦遺跡』において実施しました。

『田浦遺跡』は小松島市田浦町に所在し、勝浦川の南岸沖積地に立地します。今回調査を実施した西側には、小松島市史に甲冑等が出土したと記載のある子安観音や土管（円筒埴輪か）が多く出土したとされるお子守さん等の古墳があります。



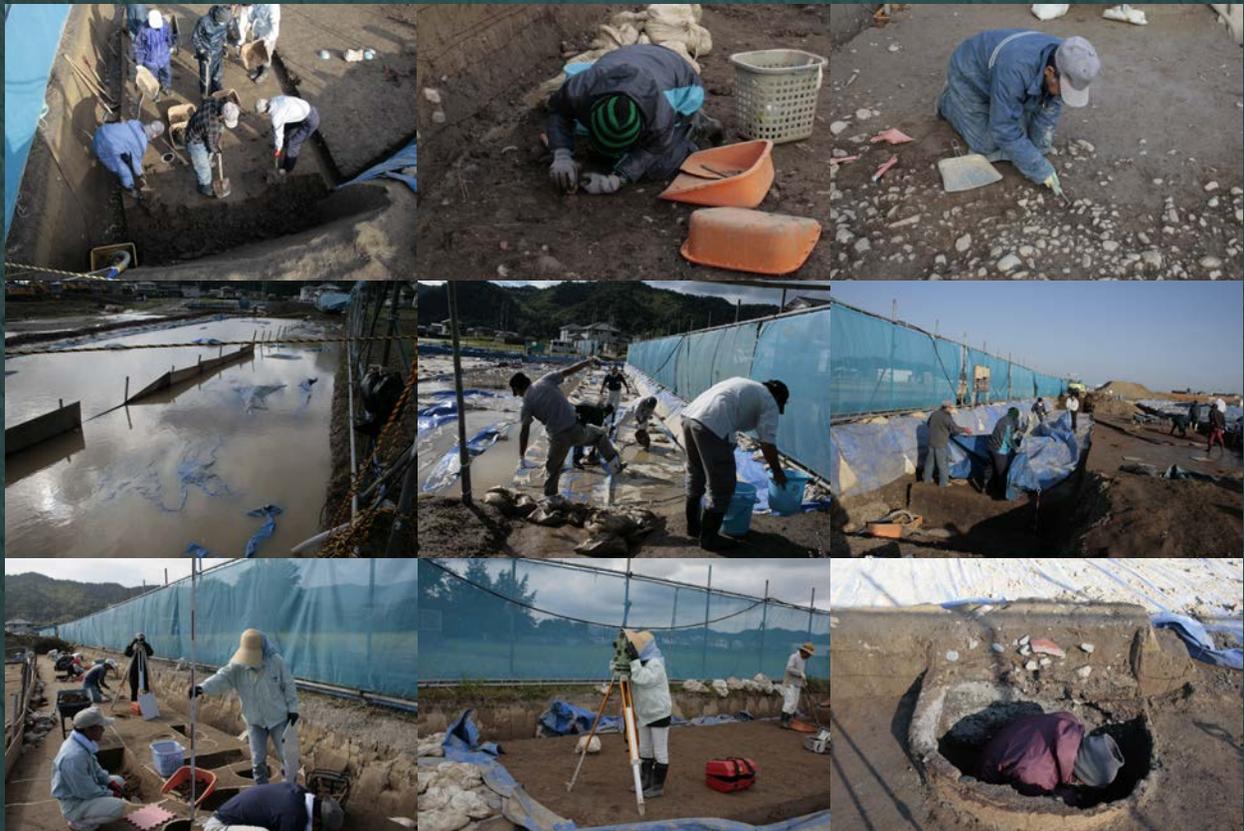
子安観音（古墳）



お子守さん（古墳）

『田浦遺跡』は弥生時代から近世までの複合遺跡で、市道の道路工事に伴い、妙連地区・子安地区の約1,833㎡において記録保存のための調査をおこないました。

調査では、379基の遺構が検出され、13,349点の遺物が出土しました。



田浦遺跡で検出された遺構

近世の肥溜（こえだめ）跡



芳しい香りとともに、検出されました。上部は表面に化粧土が施された未焼成の粘土塊で円形の枠及び蓋が構成され、遺構の中部から底部にかけては素掘りの外縁部に粘土を貼付け、竹製の箍（たが）により崩落を防止していたものと思われます。廃絶時に大量の砂で埋め戻されており、底部付近から大谷焼鉢、蓋上部に明石焼系播鉢（すりばち）が、それぞれ、ほぼ半分が出土し、その他に底部外面に墨書のある国産磁器が出土しました。

奈良時代の水田跡

子安地区の南側からは、底部に鉄分の沈着した水田跡が検出され、稲株跡や鋤（すき）溝も確認されました。また、区画する溝跡からは、奈良時代の土師器杯（はじきつき）が出土しています。



水田を区画する溝跡

区画溝跡出土の土師器杯

稲株跡



その他



近世以降の噴砂
(地震による液状化現象)



中世の溝跡

田浦遺跡で出土した遺物



弥生土器壺

完形に近い状態で出土しました。



弥生土器壺



弥生土器有孔壺〔底部〕

底に6つの穴が開いており、甑（こしき〔蒸し器〕）として使用された可能性があります。



円筒埴輪（古墳時代）

円筒埴輪の欠片は硬質なもの、軟質なものが見られ、ハケメが確認できるものもあります。



管状土錘（弥生時代）

漁具。網に付けたオモリ。



緑釉陶器（古代）

緑色（鉛）の釉薬がかけられた陶器で、東海・近江・京都・長門周辺で、焼かれました。



土師器杯（古代）

底部の外面に『九字』の刻書が施されています。



漆の付着した須恵器（古代）

須恵器の陶片の一部に漆が付着しており、パレットの様に使用された可能性があります。



龍泉窯系青磁碗（中世）

田浦遺跡は、弥生時代の明瞭な遺構は確認されなかったものの完形に近い遺物も出土しており、周辺に集落があった可能性があります。

古墳時代では円筒埴輪が出土しており、子安観音・お子守さんに伴うものか、もしくは未だに発見されていない古墳が眠っているのかもしれませんが、古代では南部が水田として利用されていますが、漆容器や緑釉陶器が出土しており、官衙（古代の役所）の存在が近隣に想定されます。

中世では妙連地区の地名から寺院の存在も考えられています。他の時代と異なり遺構数も多く、生活の痕跡が最も多く確認できています。

今後の調査や（公財）徳島県埋蔵文化財センターの調査成果と併せて、古の小松島の姿の解明につながっていくものと思われます。



凝灰岩製砥石（中世）



砂岩製砥石（時期不明）